

広報 心じい

NO. 110

47.4.25 発行

発行・富士市役所

富士市永田61-1

編集・企画調整部広報課

【毎月5日と25日発行】



丸火自然公園に植樹する渡辺市長

緑のスペースを確保

都市の緑化は、5年かかっても10年かかっても、やり遂げなくてはなりません。美しい緑とひろびろとした空間は、市民に健康で明るい生活をもたらすばかりでなく、都市美観、都市防災上欠くことのできないものとなつています。また、樹木は、大気浄化や夏の強い日ざしを防ぐ緑陰効果など大きな役割を持っています。こうしたことから緑を大切に、緑のスペースを確保しなければなりません。このため「緑のある町づくり計画」をさきごろ策定しましたが、計画は「人間と自然が調和した住みよい生活環境」の実現をはかるためのものです。

そこで、計画を積極的に進めるため、都市開発部に5月1日から「みどりの課」を設置し市の窓口とします。また、市民皆さんに参加していただき、市と市民が一体となつて緑化を達成するため、「富士市緑いっぱい市民の会」を設置します。

みどりの課を中心に 緑化すすめる

市の窓口となる「みどりの課」は、小野田清一課長をはじめ10人の職員で業務を行ないます。課の中には、緑化推進係と公園係の2つをつくり、緑化推進係は都市緑化の総合計画・普及宣伝に関することを行ないます。公園係は、都市計画公園や緑地の調査、都市計画公園の設計・管理・監督などを行ないます。

市民組織の「富士市緑いっぱい市民の

都市開発がすすむにつれ、私たちのまわりから「緑」がなくなっていくます。住みよい生活環境をつくるには「緑」はなくてはならないものです。空気を浄化するためにも、都市には12人から16人に1本の割合いで大樹が必要といわれています。この割合でいくと、現在の人口から見て15,500本の大樹がなければならないことになり、昭和50年には17,500本、昭和60年には、22,500本なければならないことになります。しかし、

緑いっぱい

諸施策をすすめていきます。

都市空間を確保し 市民の日常生活にうるおいをもたせ 都市環境を保つため

- ・市民1人当たり3平方メートルの公園スペースを確保し、積極的に整備を行なう。
- ・幹線道路の歩道や分離帯は、街路樹などで緑化をすすめるとともに、公共施設を建設する場合は空地と緑地を十分に確保する。
- ・モデル緑化地区の建設。
- ・富士山の自然景観とそれによつて形成される富士市の特性を保全する。
- ・開発行為に対する緑化の義務づけを行なうとともに、緑の工場公園化をすすめる。

市民総参加による 緑の町づくりに対する 市民意識の高揚を

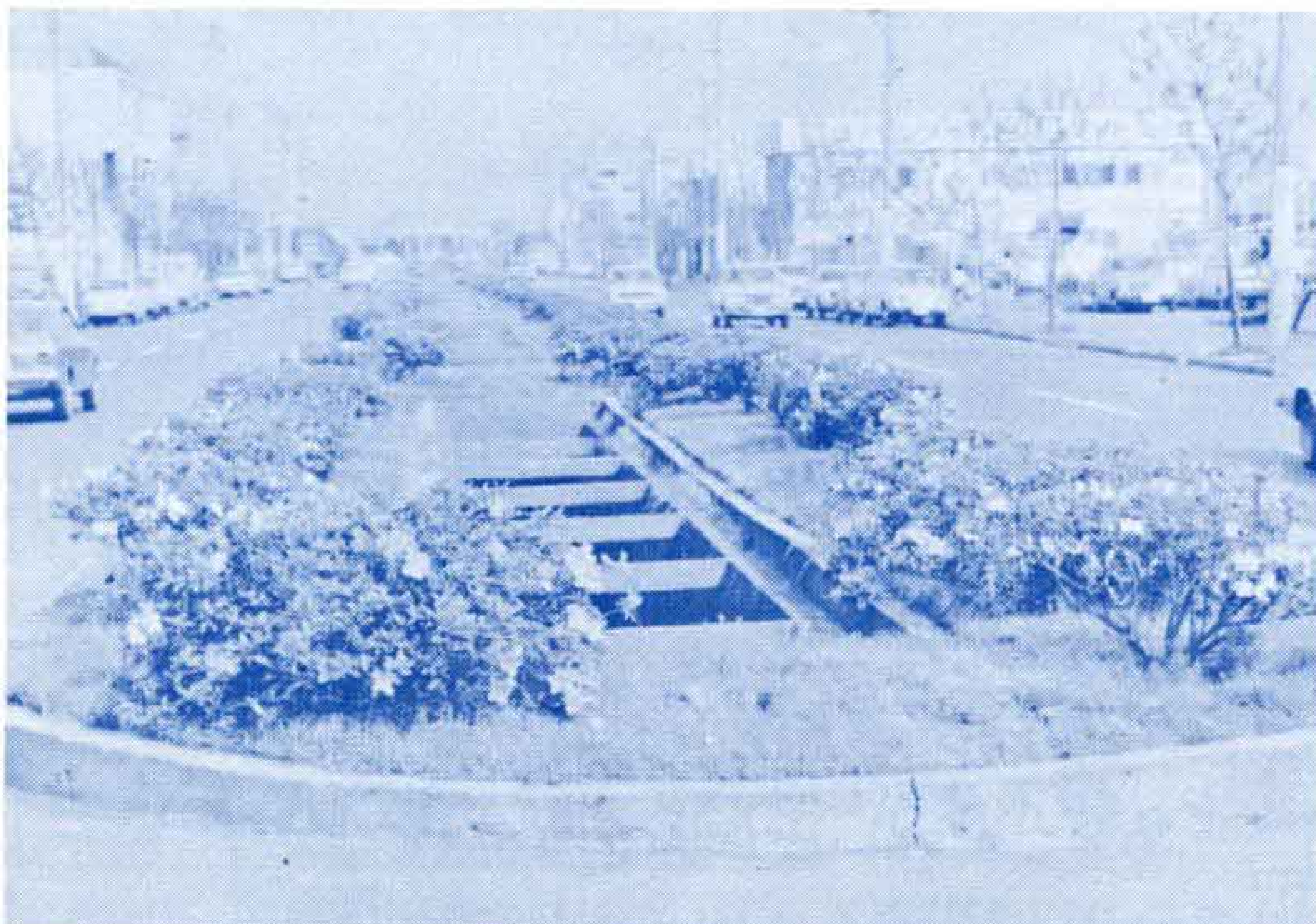
- ・市民植木市などを定期的に行き、苗木のあつせんを行なう。
 - ・緑を大切にする日などを定め、緑の町づくりに対する啓発と緑を中心としたコンクールなどの行事を行なう。
 - ・出生・結婚など新しい人生の門出を祝つて記念植樹を行なう。
 - ・公共施設の敷地・公共空地などへの植樹を行なう。
- 街路樹の植栽が終つた道路は、路線名を街路樹名（イチヨウ通りなど）に変更するとともに管理規定を設け、維持管理につとめる。

会」は、花の会をはじめ婦人会、青年団など36団体でつくり、緑化に関する市民運動の推進、学校・商店・工場・地域緑化の推進、緑化の啓もう宣伝などを行ないます。

このほか、市役所内の各部課の連絡を密にするため、渡辺市長を本部長とする「緑化推進本部」を設置し、市役所ぐるみで緑化をすすめます。

市民1人当たり3㎡の 公園を造成

緑のある町づくりを実施していくため富士市の現状を考え、次のことを重点に



街路樹や花だんをつくり緑のスペースをふやします

現実には市内に大樹はほとんどなくなかえって減っているのが現状です。緑化運動は市だけでできるものではありません。市民ぐるみの運動を展開しなければ実現はできません。このため、5月1日から市の窓口として「みどりの課」を設置し、さらに渡辺市長を本部長にした「緑化推進本部」をつくります。また、民間の各種団体の協力を得て「緑いっぱい市民の会」も近く発足し、緑化運動をすすめていくことになりました。

明るい町づくり

街路樹は23路線に
18,000本を



市内には、5カ所の児童公園、2カ所の近隣公園、風致・普通公園がそれぞれ1カ所あります。面積は11.56^{ha}で市民1人当り0.64平方^mにすぎず、人口1人当りの基準面積に比べて整備がおくれています。工業化や人口の集中化に伴なう産業公害・都市公害などの防止面からも公園・緑地の拡充整備を強力に進めなくてはなりません。そこで、市民1人当り3平方^mの公園スペースの

確保を目標に整備を進めていきます。

また、都市には、公園・緑地以外にも樹木が必要です。その代表的なものが街路樹で、街並に緑の美観をそえるだけでなく、排気ガスの浄化、あるいは街路が遊歩道ともなり、散歩と憩の場にもなります。

しかし、現在市内の街路樹は吉原勢子辻線（吉原市民会館前通り）など3路線に445本が植樹されているにすぎません。そこで、将来は吉原沼津線をはじめ、23路線延長74,900^mにイチヨウ、ポプラなど5種類18,666本を植樹します。

市街地開発は、広い意味で地域が新しく生まれ変わる現象。緑豊かな空地などの緑地環境をとり入れることが可能です。この点、市庁舎周辺の依田原新田地区は、富士市の新たな都市形成をはかる土地区画整理を実施しており、都心に最も必要な緑地環境もつくり出します。しかも市庁舎前には街路樹、市民広場や西側広場には樹木、芝生などの緑化も行なわれ、緑のある街づくりの象徴としての役割を果たしています。

したがって、庁舎周辺地域を都市緑化のモデル地区に設定し、街路樹などによ

るメインストリートの緑化、緑を象徴する公園の整備を行ないます。

富士山麓・愛鷹山麓の森林地帯は、富士市の50%を占め、林産資源の供給とともに国土保全、水資源のかん養、風水害の防止など重要な役割を果たしています。しかし、最近民間資本による開発が無秩序に行なわれ自然環境が破壊されつつあります。

このため、標高500^m以上の地域並びにその保全上重要な地域は、開発の規制を行ないます。また、公有林は、長期施業計画にしたがつて、「ヒノキ」を主体にした人工再造林を実施します。私有林についても、所有者に計画的な植伐を指導し、美しい森林地帯としての保全につとめます。

昭和50年までに 11億円を投入

緑化を進めるには、多くの予算を必要としますが、昭和50年度までにおよそ11億円の経費を要します。

47年度は1億5547万円で、児童公園、都市公園などの整備に5970万円、丸火自然公園の整備に2820万円、総合運動公園の建設に6000万円、このほか、街路樹植栽や人工再造林の整備、緑化運動推進費などに使われます。





30万トンのヘドロ処理

田子の浦港のヘドロ処理が、4月5日からはじまりました。1日18時間の作業で、6万トンを経から富士川河川敷の処理場まで送り、5月下旬までに30万トン进行处理します。

作業は5月下旬まで実施

昨年の調査によると田子の浦港には、120万トンのヘドロが堆積していると推定されています。このヘドロから、硫化水素ガスが発生したり、PCB（ポリ塩化ビフェニール）が検出されるなど、このまま放置しておくとは生活環境がおびやかされ、さらに港の機能も低下してしまいます。そこで、地域環境保全と魚類の保護、港湾機能改善のため、ヘドロ処理を昨年に続き行なうことになり、4月5日処理作業を開始しました。

今回の事業は、公害防止事業費事業者負担法に基づいて行なっていますが、総事業費は5億円。このうち82%にあたる4億1000万円を企業者が負担、残りの900万円を県と市が負担します。

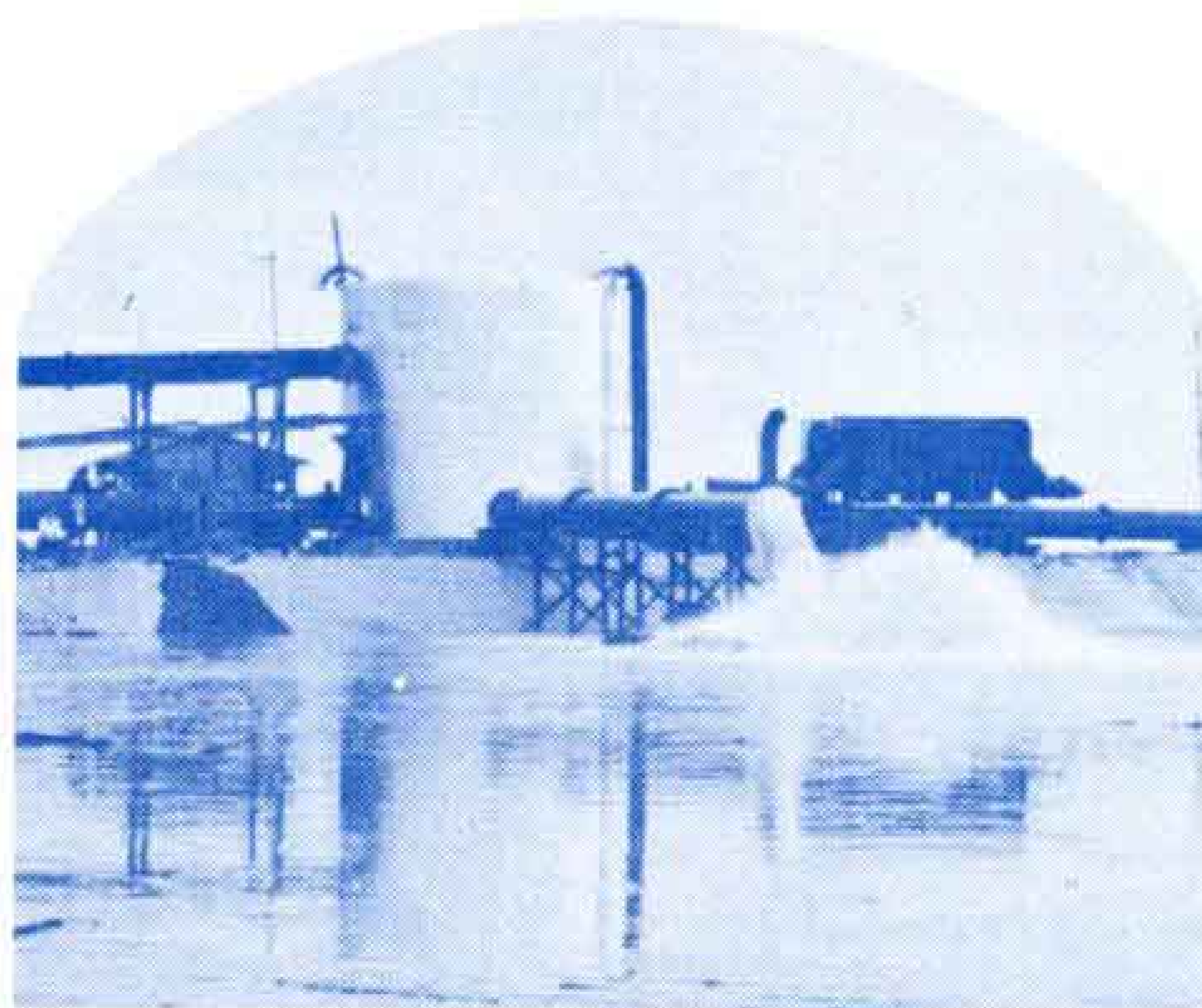
田子の浦港に堆積している120万トンのうち4分の1にあたる30万トンを5月下

旬までに処理する予定です。処理は昨年と違った陸上泥送方式で行ないます。この方法は港から富士川河川敷の脱水処理場まで鉄パイプ（直径683ミリ）を布設（延長6.5キロ）し、水分90%のヘドロを4000馬力のポンプ船で送ります。脱水処理場は、富士川河川敷の18万平方メートルを3万平方メートルずつ6つに分け、まわりを砂利でかこんで造成しました。送られてきたヘドロは中央のばつ気槽から処理池に入られます。

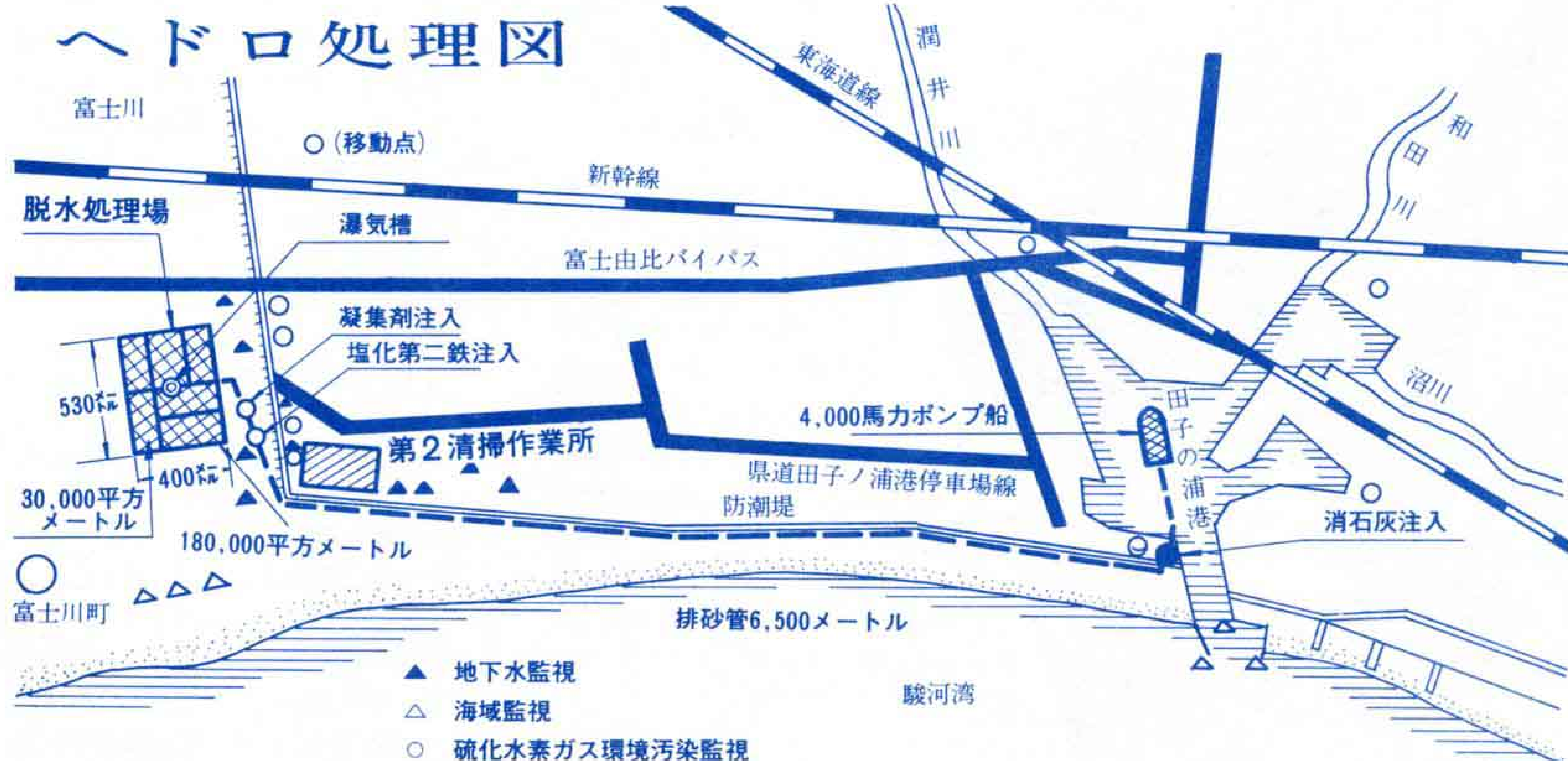
作業は、船の出入があるので、夜間重点に実施しています。午前7時から11時までの4時間、午後4時から翌朝6時までの14時間、合計18時間行ない、1日6万トンのヘドロを処理場まで送ります。

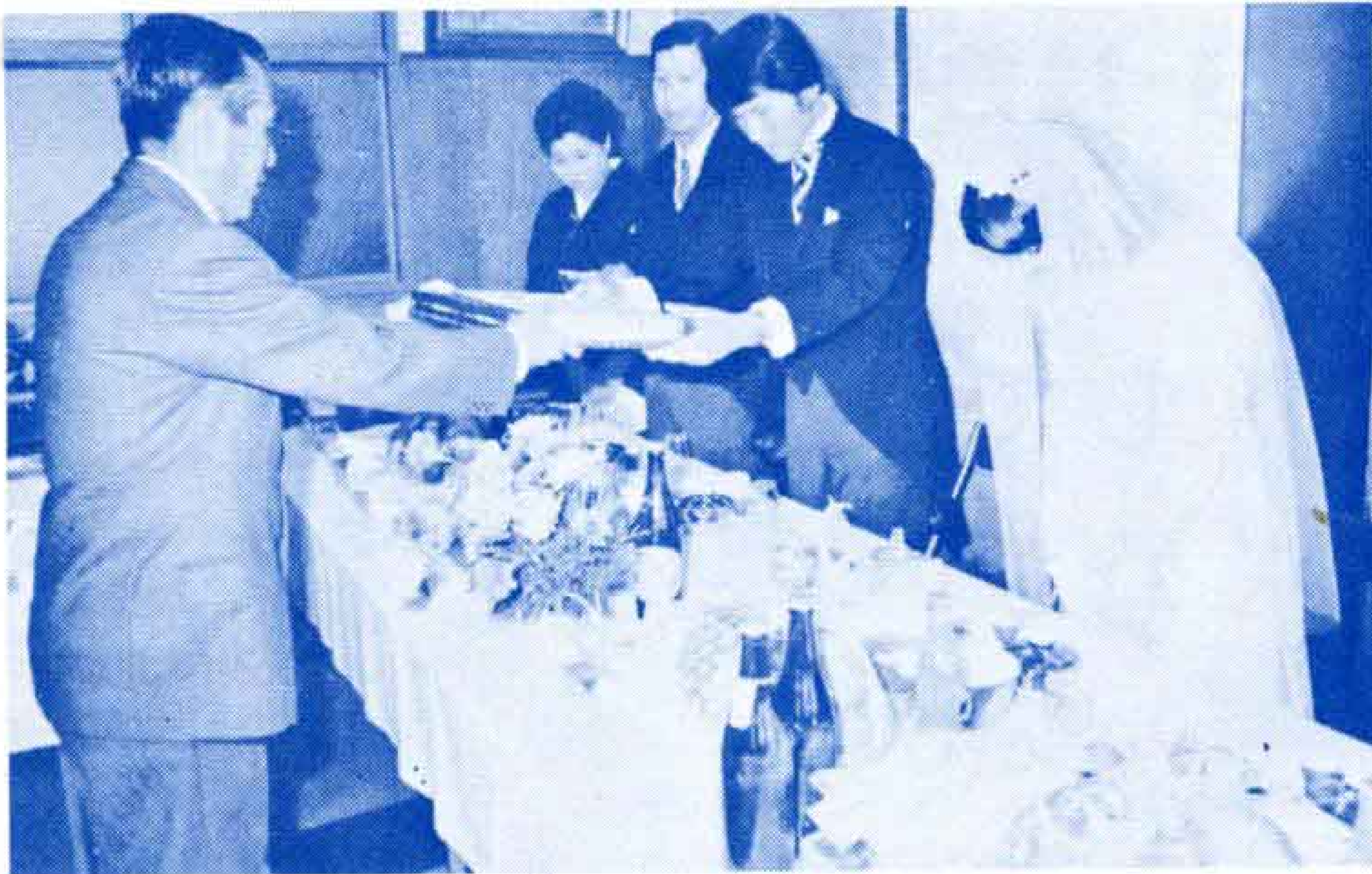
なお、ヘドロから発生する硫化水素ガスや臭気を防止するため、消石灰や塩化第二鉄、凝集剤などを注入して、万全をはかっています。また、県・市の公害課や地元

代表で公害監視班を編成して、硫化水素ガスの監視や地下水、海域監視に目を光らせています。監視は硫化水素ガスと地下水を10カ所で、海域を6カ所で行なっています。硫化水素ガスの場合、2カ所以上で0.3PPmが2時間継続した場合は作業を中止して安全をはかるなど、作業に万全を期しています。



【富士川河川敷の脱水処理場】





4500組目がゴールイン

4500組目の結婚式が行なわれました。吉原市民会館が昭和34年1月開館して以来、毎年約340組の結婚式を行なってきましたが、4月16日にちょうど4500組目のカップルが誕生しました。結婚式をあげたのは加藤正巳さん(24才・今井毘沙門町)と芦沢里子さん(24才・富士宮市浅間町)です。

そこで、新郎新婦に新しい人生の門出を祝つて、渡辺市長からメッセージと記念品を贈りました。

なお、16日は今年最も縁起のよい日にあたり、吉原市民会館で6組、富士文化センターで9組、鷹岡公民館で3組の結婚式が行なわれました。

春の交通安全運動

効果あげたスクールゾーン

期間中の事故は37件
昨年を7件うわまわる

小学校や幼稚園などを中心に、500に四方の範囲で子どもの交通安全を絶対優先するスクール・ゾーンの設定。子どもと保護者に対する交通安全指導。ふたつを重点に春の交通安全運動が4月6日から10日間行なわれました。

この結果、期間中の子どもの交通事故は、これまでの交通安全運動に比べ大幅な減少を示し、特に、スクール・ゾーン内では、子供の事故が発生しませんでした。

しかし、全体的にみると事故が37件(昭和46年30件)発生、傷者46人(41人)

と昨年を上回つてしまいましたが、幸い死者はありませんでした。37件の事故を原因別に見ると右左折違反・歩行者保護違反4件、酒酔い運転・徐行違反3件、安全運転義務違反12件などと圧倒的に運転者の不注意によるものが多く発生しています。歩行者側の不注意から起つた事故としては、とび出しの2件がありました。なお、これらの事故のうち酒酔い、ひき逃

げなどの悪質な事故を起し、逮捕された者が5名いました。

このほか、交通三悪と言われている無免許運転・酒酔い運転・速度違反や信号無視など法令違反のため検挙されたのが404件もあり、なかでも最高速度違反による検挙が107件もありました。

さて、子どもの事故防止に効果を上げたスクール・ゾーンは、現在広見小学校をはじめ富士中第1小学校など8校に設定してあります。今後、市内の全小学校を対象にスクールゾーンを設け、子どもを事故から守る施策をすすめていきます。



【スクールゾーンを8カ所に設置】



市内でもつとも

多い名字は……

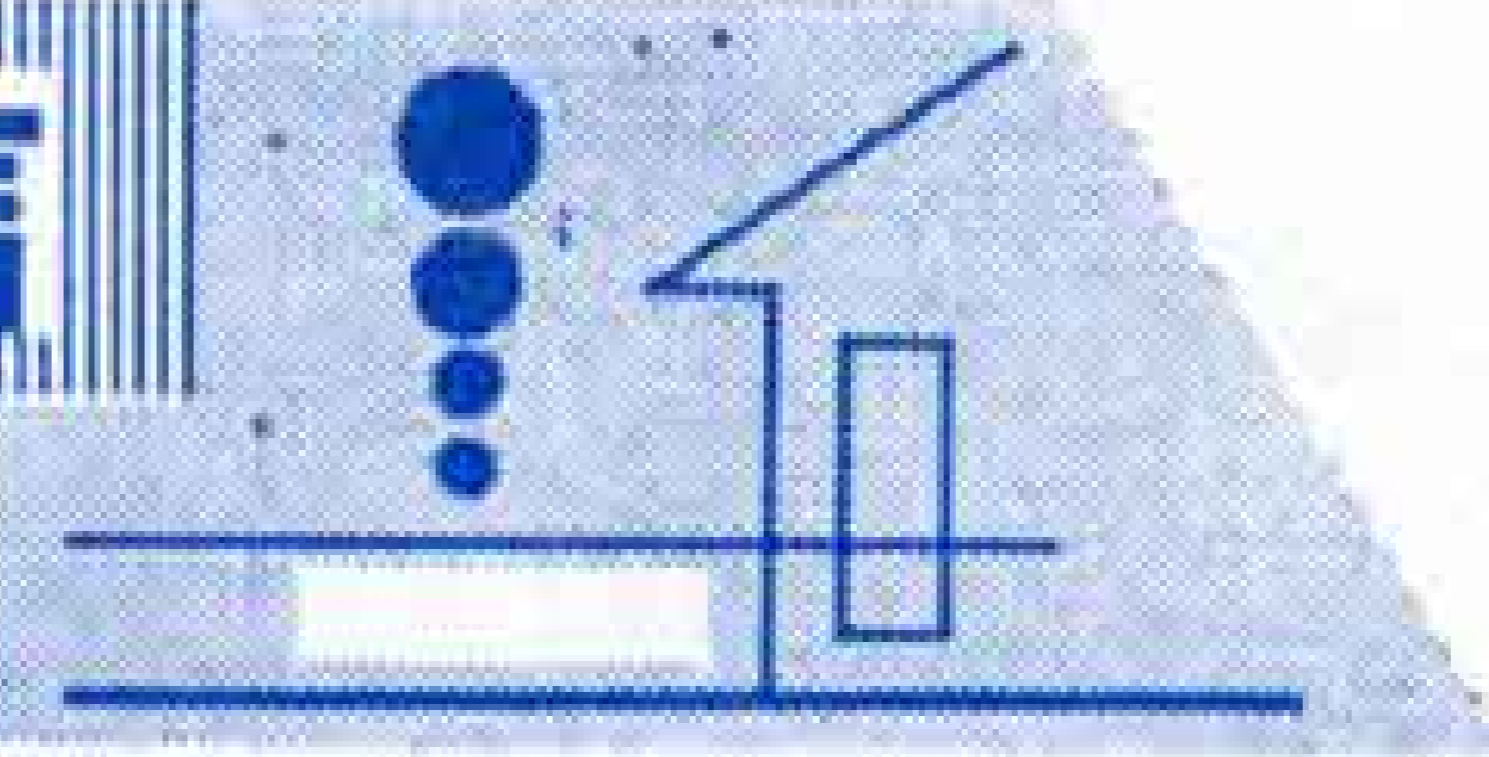


市内でもつとも多い名字はなんだと思いますか。住民基本台帳がコンピュータに登録されたのにともない、名字の調べをしてみました。名字は全部で921種類あり、10位までの順位は次のとおりです。

名字	人数	世帯数	全国
①スズキ	10,156	2,508	①鈴木
②ワタナベ	9,293	2,241	②佐藤
③サノ	5,797	1,461	③田中
④モチヅキ	5,231	1,332	④山本
⑤カトウ	3,113	747	⑤渡辺
⑥エンドウ	3,075	777	⑥高橋
⑦コバヤシ	2,924	745	⑦小林
⑧サトウ	2,607	759	⑧中村
⑨イシカワ	2,404	572	⑨伊藤
⑩ヤマモト	2,282	611	⑩斉藤

富士市で3位のサノは全国では201位、4位のモチスキは2229位となっています。なお、富士市の20位までは⑪アキヤマ⑫スギヤマ⑬カツマタ⑭サイトウ⑮タカハシ⑯ゴトウ⑰イトウ⑱イデ⑲タナカ⑳ヤマダとなっています。

市政モニター提言



通園、通学路を点検して 整備をしてください

市内には、通学路に指定されている道路がたくさんあると思います。その道路ははたして児童が安全に通学できるように、整備されているでしょうか。

私の住んでいる元吉原地区の場合、PTAから通学路を整備してほしいと、再三にわたって要望していますが、相変わらず悪路のままです。特に、今井毘沙門天の裏は雨がふると大きな水たまりができてしまいます。車が通るときなど、子どもたちは水たまりに足をとられ、見て

いて気が気ではありません

新入学児童も登校しているのです。子どもを交通事故から守り、安全に登下校できるように1日も早く通学路を整備してほしいと思います。ほかの学区にもこうした悪路がまだ多いと思います。ぜひ



【通学路の総点検で悪路を追放して】

通学路の総点検をしていただき、悪路をなくしてください。

なお、通学路に子どもの好奇心を刺激するような広告をよく見かけます。できればそうした広告はないのがもつともいいのですが、もし無理でしたら、せめて通学路だけでも貼らないように規制してください。

(鈴川浜町東・長谷川幸子)

空地、河川敷などを 運動場に

さいきん、幼児を中心とした小遊園地が各所にでき、たいへんいいことだと思います。ところが、小中学生用の遊び場がありません。

子どもたちの遊び方は変わってきていますが、やはりスポーツが健全育成にもつともよいと思います。しかし、市内には精いっぱい運動をする場所はほとんどなく、青少年の健全ということばが少しもいかされていないようです。

空地や河川敷を利用して、ソフトボールぐらいできる運動場を作ること検討してください。できれば2町内から3町内に1カ所ぐらいの割合で作ってほしいものです。

なお、青少年が運動できるように学校施設の開放も考えてください。スポーツを見る楽しみだけでなく、自分が運動する楽しさを植えつけたいものです。

(鮫島・市川甲八)

当直医院

休日当直医院は、富士市医師会が急病者のために定めたものです。急病などでお困りのときにご利用ください

■5月3日

外科 鈴木医院(宇東川3 52-2213)
戸田医院(横割1 61-2026)
産婦人科 長野医院(柚木 61-1907)

■5月5日

外科 石川医院(瓜島 52-1985)
藤井医院(松岡 61-7811)
産婦人科 米山医院(和田2 52-1399)

■5月7日

外科 米山医院(和田2 52-0275)
中央病院(本市場 61-8800)
産婦人科 窪田医院(平垣 61-3100)

■5月14日

外科 米山病院(吉原4 52-3060)

西田医院(富士本町 61-0045)

産婦人科 遠藤医院(吉原3 52-1941)

■5月21日

外科 快明堂医院(中央町1 51-0301)
神谷医院(川成島 61-5900)
産婦人科 中央病院(本市場61-8800)

■5月28日

外科 芦川病院(中央町2 52-2480)
松本医院(久沢東 71-2570)
産婦人科 鈴木医院(和田町52-1712)

※内科は富士医師会が「医療センター」で行ないます。診療時間は午前9時から午後5時までで、時間外の診療はいたしません。

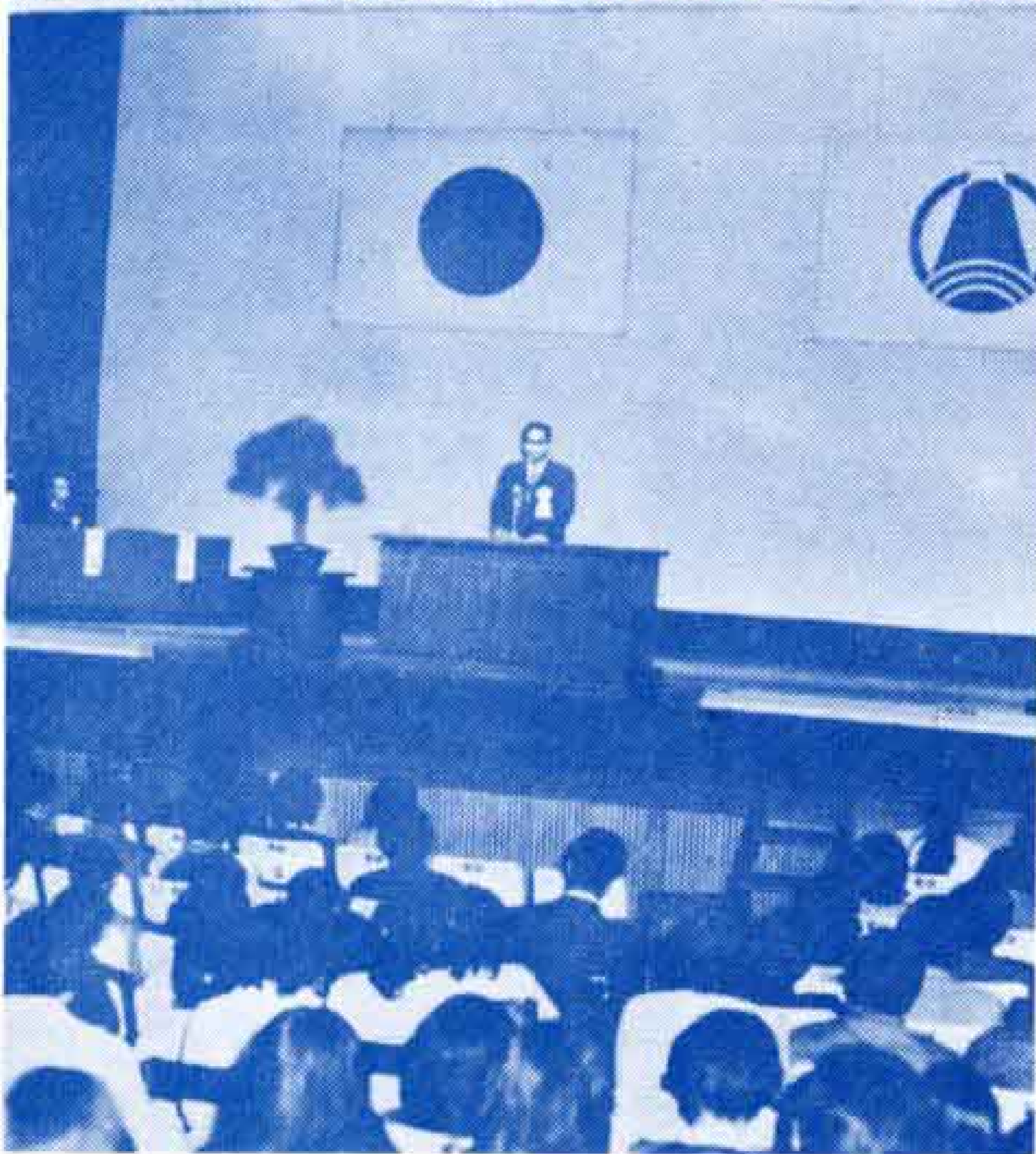
・医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2(長者町) 電 52-31111」です。



■ 不法看板の取りはずし

道路や電柱にベニヤ板で作った掛けすて看板が多く、町の美観をそこないます。また、大きなものは道路標識や信号機を見ずらくするなど、交通事故の原因にもなりかねません。このため、春の交通安全運動期間中の4月14日、市は富士警察署、県土木事務所などの協力で、「不法看板」の取りはずしを行ないました。この日取りはずしたものは、4トン積トラック2台分もありました。

祝 富士市就職者激励会



■ 就職者激励会

市内の事業所や商店には、今年中学・高校を卒業した1670人が就職しました。そこで、全員に立派な社会人となつていただこうと就職者激励会をさきごろ吉原市民会館で行ないました。会場には会社の制服を着ている人、学生服や私服で来た人などまちまちでしたが東北や九州など県外から就職した470人も元気に出席しました。

これはこまります

タバコの吸いがらや紙クズを道路に捨てる人。土砂をトラックで運んで来て空地に捨てていく人。皆んな自分のことしか考えていない人たちです。だれでも家のまわりにゴミが落ちていれば掃じをしてきれいにします。道路や空地が自分のものなら同じようにきれいにするはずです。皆さん道路や空地、川などにゴミを捨てている人を見かけたら、お互いに注意しあいゴミのないきれいな町づくりに努めましょう。



年金
コーナー

料理学校生などは
加入します

問 私は21才の料理学校の学生ですが、市役所から国民年金へ強制的に加入させられました

学生は加入しなくてもよいと聞きましたが、どうなっているのでしょうか。

答 国民年金では、学校教育法に規定する全日制の大学生は、強制加入の対象から除外し、任意加入ができるようにしています。強制加入から除外したのは、卒業して会社などに就職すると厚生年金保険などへの加入が予想されますから、卒業

するまでは、国民年金への加入を強制しないで、希望する人だけを対象にしています。

ところが、料理、洋裁、理美容などの学校に通う人や定時制の学生、通信教育生などは、すでに社会で働いている人が多く、卒業後も自営したり小規模な事業所に雇われる場合が大部分なので、強制加入の対象となつています。

学園ひろば

ぼくらのまち

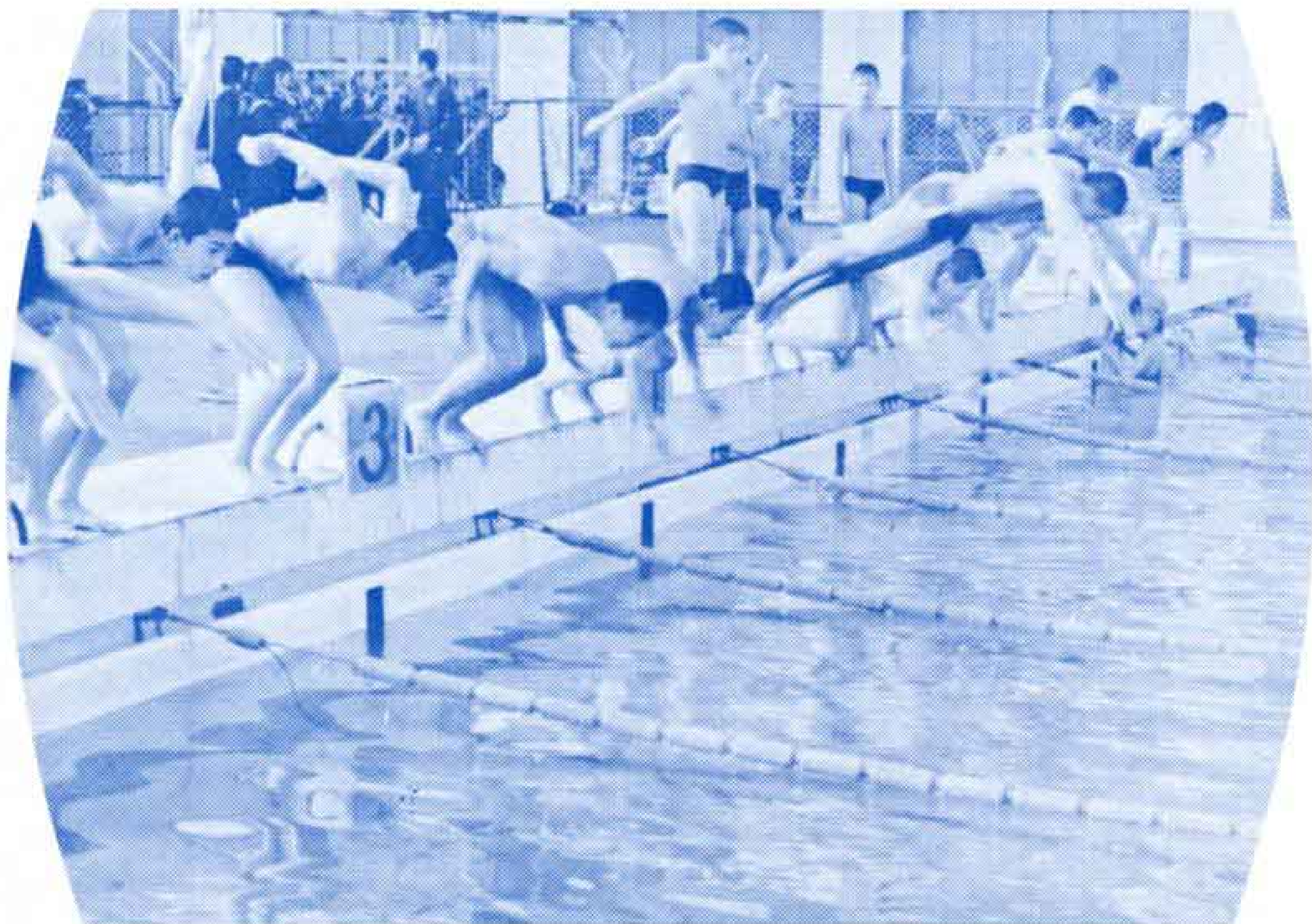
砂浜で新入生をむかえる会

…神戸小学校…

神戸小学校のみんなは、4月19日に、鈴川海岸で「新入生をむかえる会」を開きました。「新入生をむかえる会」は今年で2回目。去年は学校で行ないましたが今年遠足をかねて実施しました。

黄色の新しい帽子をかぶった新入生は、6年生のお兄さん、お姉さんに手を引かれ、約7キロの道を元気に歩きました。海岸につくと、222人の生徒が輪をつくり、各学年ごとに歌や笑話、宝さがしを行ない、新入生をむかえました。

とくに宝さがしは、6年生が砂に番号札をうめ、1年生がそれをさがし、番号のあつた新入生に贈り物をしました。新入生たちはノートや鉛筆の贈り物に大喜びでした。



早くも水泳練習

…吉原一中水泳部…

吉原第1中学校水泳クラブの練習がはじまりました。

1中の水泳部は、市内の大会でここ数年男女とも優勝を飾っていますが、今年も他校に負けじと練習に励んでいます。水温は、暖かい日で18度と、まだ水に長く入っているとからだがしびれてしまうほどですが、みんな元気いっぱい。寒さに負けず1日の練習量2000を軽くこなしています。



わたしたちのまち



大淵第2小
6年
勝亦久美子

私の住んでいる富士本は、空気がすんでいて、緑の木にかこまれ、山にたんぽぽやすみれが咲いてとてもきれいだ。学校の近くの山の頂上に登ると、下がよく

見えて見はらしがいい。町の中にいる人は公害になやまされていやだろう。私は町の人たちに、緑がいつばいの富士本を見せてやりたいと思う。

むかし私の家の近くの道は、大きな石がいつばいあつて、人が歩くのにもたいへんだつたそうだ。でもいまでは、ほそろになつて、たいへんよい道ができた。

私たちの学校の生徒の人数は58人で、いまもふくしきの組がある。私も5年生の時はふくしきだつた。私は、もう少し多ぜいの生徒がいればいいなと思う。

学校のうらに見える大きな富士山。いただきには、まつ白な雪をのせ、下の方には緑の木がいつばい植えてある。私は

こんな富士山の下にいて、とてもしあわせだ。

夏はプール。ひの木やすぎの木にかこまれたプールで泳ぐのは気持ちいい。

秋は、いちようやもみじの葉が、いろいろな色にそまつて、絵に書いたようにきれいだ。

冬はとてもさむい。がまんして勉強していると、いつのまにか雪がふつてきている。雪がつもると、雪がつせんをしたり、大きな雪だるまを作つてあそぶ。とてもたのしい。私はいつまでもいまのままの富士本になつていけばいいと思う。